

# EUの農村地域振興政策 —コミュニティ主導型政策への流れ—

平成26年度農林水産策研究所シンポジウム  
農村におけるイノベーションを担う人材とその育成—EU・韓国・日本の動き—



2015年3月9日(月)  
明治大学農学部  
市田知子

# 本報告のポイント

---

- EUの農村地域振興の一つであるLEADERプログラムの変遷(1990年～)
- 「コミュニティ主導の地域振興戦略」(CLLD)としての再編(2014年～)
- ローカル・アクション・グループ(LAG)の活動状況
- 今後の課題

---

# 1. LEADERの変遷

# 1. (1) LEADERプログラム(1990年～)

---

- 農村経済発展の行動連携 (Liaison entre actions de développement de l'économie rurale)
- 目的: 農村地域に多様な所得獲得手段を創出し、人口の流出を防ぐこと。
- 特徴: 地域住民によるLocal Action Group (LAG)がプログラムの設計段階から参加する。
- 2012年1月の時点(27ヶ国)で2,308グループが活動。

資料: EU Rural Review No.11, 2012 LEADER and Cooperation

---

# LEADERの背景、意義

---

- EU文書「農村社会の将来」レポート(1988年)

農村＝農業ではない。

- 福祉国家モデルから政治的多元主義へ、民間、地域が参加する時代へ。

\* 農村社会学者のRay(2000)。

- 80年代の内発的開発論の流行

→先進国にも適用できるのではないかという  
発想

---

# LEADERの手法、採択要件

---

- 地域に自主的なグループ(ローカル・アクション・グループ:LAG)が結成され、LAGのアイデアが行政側にボトムアップ的に提示される。
- アイデアの採否は、革新性があり、普及のためのモデル性を備えているかどうかで決定する。

# 1. (2) 農村地域振興(「第2の柱」)の拡充

---

- 2003年末:当時の農業委員フィシュラー氏(オーストリア、チロル地方出身)が拡充を提案。
- 背景
  - 2004年以降の「EUの東方拡大」:  
2007年には27ヶ国に
  - WTO農業交渉でのEUのスタンスをより鮮明にするため:多面的機能、農村の価値、食品の品質を強調

# 予算手続きの簡素化と予算措置 (2007～2013年)

農業・農村振興基金(EAFRD)



## 農村地域振興の4つの柱

- ・競争条件改善: 15%→10
- ・土地管理、農村経済の多角化:  
25%→25
- ・農村での生活の質: 15%→10
- ・LEADER : 7%

地域開発基金、社会基金



## 3つの目標

- ・域内の「結束」
- ・「地域の競争力および就業」
- ・「欧州の地域空間内での協力」



# 1. (3)「実験」からmainstreamへ

---

- LEADER I : 1992～94年  
4億ECU、共同体主導により217地区を選定
- LEADER II : 95～99年  
14億ECU、対象地域は「目標5b」、「目標1」、  
「目標6」
- LEADER+ : 2000～2006年  
21億ユーロ、対象地域の限定はなし
- LEADERaxis(第4フェーズ) : 2007～2013年  
農村地域振興の4本柱の一つ、  
予算割合は「農村地域振興」予算全体の7%を目途  
(実際には6%) 55億ユーロ

---

## 2. 「コミュニティ主導の地域振興戦略」 (CLLD)としての再編

## 2. (1) 財源の複数化

---

### □ 背景:

- LAGや地域をまたがる活動が増加し、効果を挙げている。
- ギリシャ危機(2010～)以降のEUの厳しい財政状況
- 「ポスト2013」共通農業政策改革

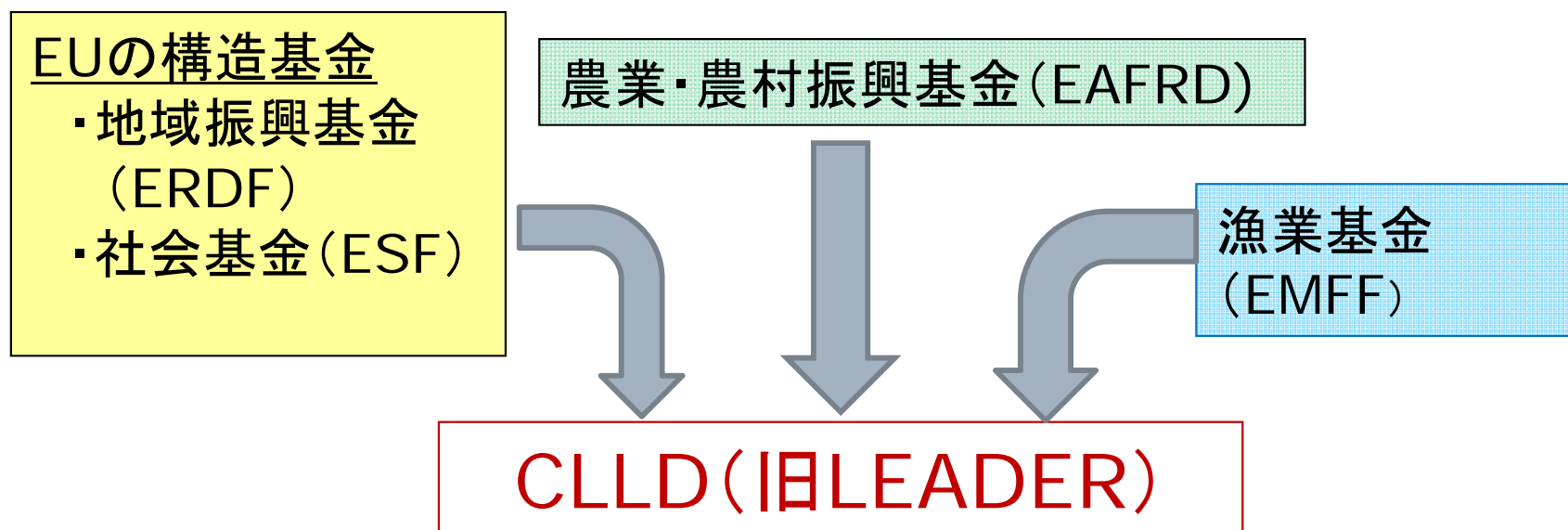
### □ 欧州委員会による再編成: 従来のLEADERを「コミュニティ主導の地域振興戦略」

(Community-led Local Development、略称CLLD)と呼び換える。

---

# 財源複数化のイメージ

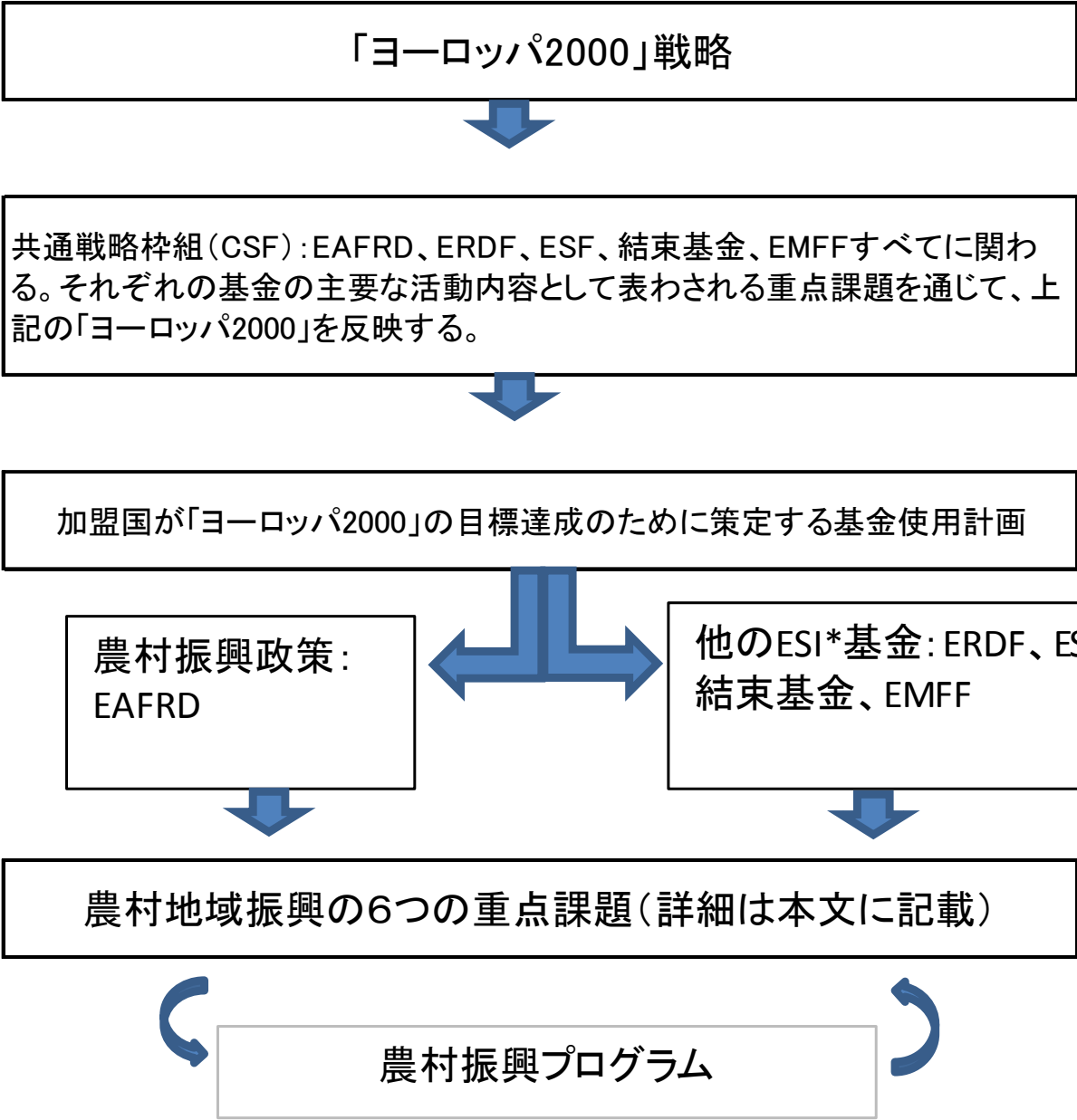
---



## 2. (2)「ヨーロッパ2020」に基づく計画の策定と実施

---

- 複数の基金の組み合わせによる制約、統一性の欠如を避けるため、共通目標を設ける。
- 「ヨーロッパ2020」戦略：EUが2020年までに達成すべき目標であり、雇用、技術革新、教育、社会的包摂、気候・エネルギーの5つの分野がある。



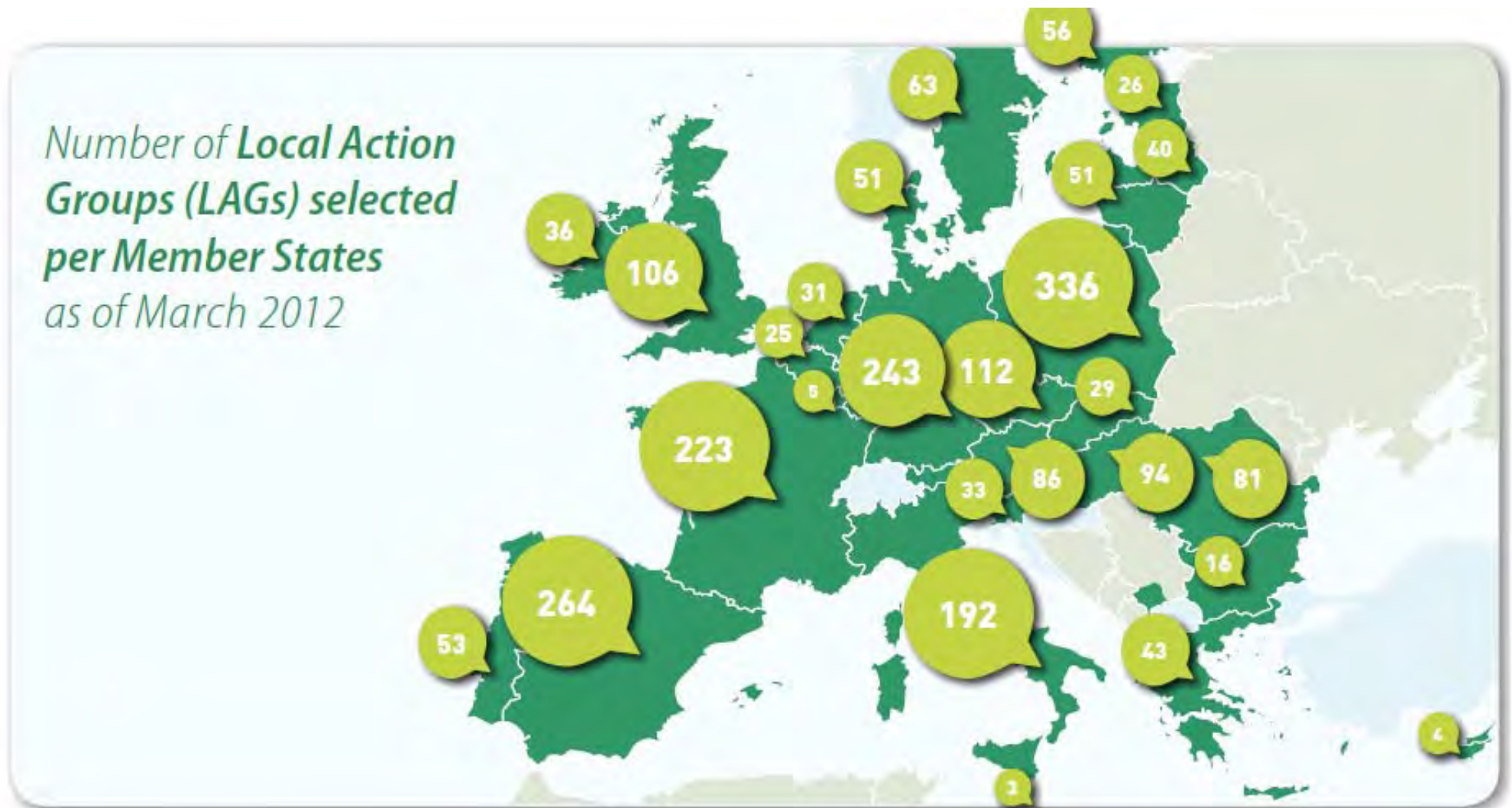
\*European Structural and Investments funds (欧州構造投資基金)の略。

---

### 3. ローカル・アクション・グループ (LAG)の活動状況

---

## 国別にみたLAGの数



Source: ENRD Contact Point



# LAGの活動内容(2004年5月時点)

---

- 新しいノウハウ、新技術の利用: 11%
- 農村の生活の質の改善: 24%
- 地域産物への価値付加: 20%
- 自然資源、文化資源の活用: 34%

\* 活動内容は複数のこともある。

# 複数国間の共同プロジェクト

---

- 近年、国境をまたがるLEADERの活動 (Trans National Cooperation)が増加。19ヶ国で470プロジェクトが存在(うち45%が活動中)。
- 活動内容: ツーリズム(101)、文化(99)、コミュニティの発展(67)、教育(53)。
- 国による特徴: 「食品製造促進」ではベルギー、ブルガリア、エストニア、イタリア、フランスが、「環境」ではオーストリア、ベルギー、ドイツ、イギリスが比較的多い。

## 共同プロジェクトの事例：ドイツとデンマーク

---

- 実施期間：2005年5～9月
- 総予算額：181,800ユーロ、EUと加盟国が半分以上ずつ負担。
- 実施経緯：ドイツ最北部に位置するSchlei地方のLAGが主導グループとなり、隣接するデンマークのLAGを誘う形で始まる。
- 活動内容：ヴァイキング時代の建造物の保存、博物館建築により、地域固有の歴史、文化を観光資源にする。

# ヴァイキングの遺跡(参考)



---

## 4. 今後の課題

---

## 4. (1) 財源の複数化

---

### □ メリット:

- ① 大きな課題の解決がよりの確になる。
- ② 都市と農村の連携が可能になる。
- ③ 資金調達の効率化

### □ デメリット

EAFRDと構造基金の制度的違いによる齟齬をどう防ぐか？ マッチング・ファンドの問題など。

→両者を繋ぐ「インターフェース」が必要。

## 4. (2) EAFRDの助成率拡大

---

- EAFRDによるEUの共同財政負担率が従来の50%から80%に拡大。
- 市町村自治体が「通常業務」のための財源としてLEADERを利用する。LAGのメンバーが公務員に偏るのではないかと懸念。
- 助成率80%のEAFRDと、50%の地域開発基金(ERDF)をどう使い分けるか？前者は公共的な費用に対してのみ助成可能。

## 4. (3) LAGへの移管業務

---

### □ LAGの活動内容審査・許可、助成金支払いの業務

→ 公的機関(州政府など)から一部、LAGに移管することが可能になる。

「LAGは公的資金支払機関から移管された追加的任務を遂行することができる」(EU規則1305/2013)

→ 具体的な内容は示されていない。



# おわりに

---

- 財源の複数化により、国境地域での共同活動、農村と都市との連携がより活発になることは歓迎すべきこと。
- 一方で、事務手続きの簡素化をどう図るかという問題がある。
- 行政のLAG支援、リージョナルマネジャーなどの人材育成・確保がこれまで以上に重要になるのではないか。

---

ご静聴ありがとうございました。

